

# 24年のグローバル市場は適温経済継続が支えに



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① ソフトランディングに向かう世界経済

23年のグローバル市場は、インフレ鈍化とそれに伴う世界的な金融引き締めを終焉が意識されたことが、投資家心理の改善につながりました。懸念されていた世界的な景気後退や企業業績の大幅な悪化が回避されたことから、とりわけ株式への見直しが強まり、年末にかけては米ダウ工業株30種平均やハイテク株主体のNASDAQ100が最高値を更新しました。

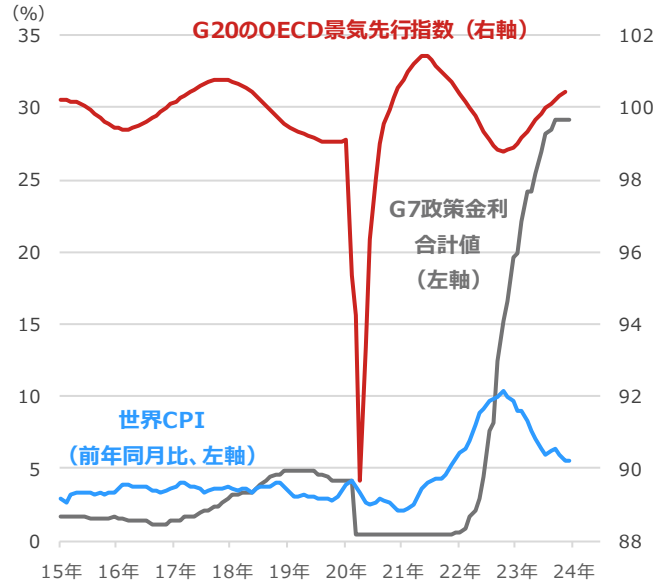
24年のグローバル市場の行方を探る上では、緩やかな経済成長とインフレ鈍化が併存する「適温経済」が持続するかが焦点となります。各中央銀行による積極的な金融引き締めにより、インフレは着実に鈍化しつつある半面、G20のOECD（経済協力開発機構）景気先行指数は上昇基調に回帰するなど、世界経済はソフトランディングに向かっているといえます（右上図）。

## ポイント② 世界的な利下げが適温経済の支えに

インフレ鈍化を背景に、今後は各中央銀行による緩やかな利下げが視野に入りつつあり、こうした動きが世界景気をサポートすると考えられます（右下図）。その意味では24年のグローバル市場では、利下げ観測から「債券」を選好する動きが強まりやすいといえるほか、世界的な金利上昇のピークアウトや景気の緩やかな回復が継続するとの前提に立てば、「株式」などのリスク資産への見直しも継続すると考えられます。

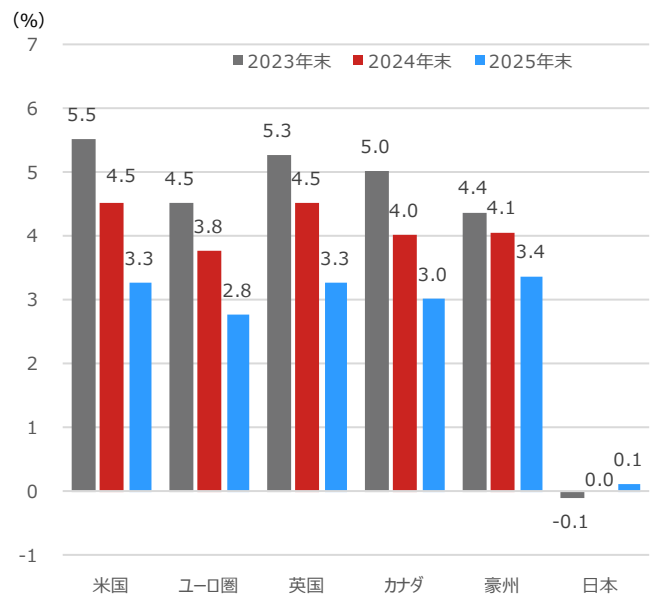
ただし、地域や国で格差が出る可能性があることには留意が必要です。欧州景気は低迷が続くと見込まれる一方、米国は相対的に景気の足腰が強い状態が続くとみられており、株式などのパフォーマンスに差が出そうです。世界に逆行する形で金融政策の正常化を進めるとみられる日本は、金利上昇や円高がどの程度進むかがポイントとなります。

G20（主要20カ国）のOECD景気先行指数・G7政策金利合計値・世界CPI（消費者物価指数）



期間：（G20のOECD景気先行指数）2015年1月～2023年11月、月次（その他）2015年1月末～2023年12月15日、月次  
 ・世界CPIは世界全体に占める各国のGDP比率で加重平均（Bloomberg算出）  
 ・G7（主要7カ国）政策金利合計値：米国、ユーロ圏（ドイツ、フランス、イタリア）、日本、英国、カナダの政策金利合計値  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## 主要国・地域の政策金利予想値



期間：2023年末～2025年末、年次  
 ・政策金利予想値はBloombergが集計した市場予想の中央値（2023年12月15日時点）  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。